【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月14日

【四半期会計期間】 第64期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 旭松食品株式会社

【英訳名】 ASAHIMATSU FOODS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 木下 博隆

【本店の所在の場所】 長野県飯田市駄科1008番地

(同所は登記上の本店所在地で、実際の業務は下記で行ってお

ります。)

大阪市淀川区田川三丁目7番3号

【電話番号】 06(6306)4121(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 足立 恵

【最寄りの連絡場所】 大阪市淀川区田川三丁目7番3号

【電話番号】 06(6306)4121(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 足立 恵

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

旭松食品株式会社 東京支店

(東京都中央区日本橋人形町二丁目33番8号)

旭松食品株式会社 大阪支店

(大阪市淀川区田川三丁目7番3号)

# 第一部 【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次			第63期 第 2 四半期 連結累計期間		第64期 第 2 四半期 連結累計期間		第63期
会計期間		自至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自至	平成25年4月1日 平成25年9月30日	自至	平成24年4月1日 平成25年3月31日
売上高	(千円)		4,762,701		4,666,434		10,363,596
経常損失( )	(千円)		55,508		106,940		29,309
四半期(当期)純損失( )	(千円)		98,112		115,746		265,890
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		113,146		43,750		199,737
純資産額	(千円)		7,910,381		7,734,117		7,823,712
総資産額	(千円)		10,620,288		10,282,132		10,523,569
1株当たり四半期(当期)純損失 金額()	(円)		10.71		12.64		29.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		74.2		74.8		74.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		34,914		38,569		361,298
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		96,235		265,804		150,095
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		363,083		42,932		398,233
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		603,825		952,377		1,217,432

回次			第63期 第 2 四半期 連結会計期間		第64期 第 2 四半期 連結会計期間
会計期間		自至	平成24年7月1日 平成24年9月30日	自至	平成25年7月1日 平成25年9月30日
1 株当たり四半期純損失金額	(円)		8.64		8.64

- (注) 1.当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
  - 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
  - 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

#### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

#### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

#### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アベノミクスへの期待や、金融緩和により円高是正と株高が進み景気回復に向けて明るい兆しが見られるようになってまいりました。

このような状況の中、当社グループは穀物相場の高止まりや円安による原材料調達価格の上昇、重油やLPガス等の燃料の高騰など自助努力では吸収できない部分を販売価格へ転嫁すべく、主力事業の凍豆腐、加工食品を中心とした収益構造の改善に努めてまいりました。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は46億6千6百万円(前年同四半期比2.0%減)となりました。食料品事業セグメントの内訳としては、凍豆腐では、業界のリーダーシップをとり、他社に先行し売上原価の高騰分を販売価格へ転嫁できるよう交渉を進めており、同時に販売促進費の削減を販売先へ依頼してまいりました結果、夏場の記録的な猛暑も重なり販売数量は減少し、売上高は18億4千9百万円(前年同四半期比3.7%減)と減少いたしました。なお、当社食品研究所が長年研究を行ってきました、凍豆腐が持つ中性脂肪上昇抑制作用やコレステロール低下作用などの健康機能性について、業界団体を通じ広報活動を行うなど、市場の維持拡大に努めました。加工食品においては、袋入りで減塩タイプの徳用品や好評を得ていた納豆汁の徳用品を発売し、3食タイプ主力品のリニューアルを行いました。カップ入りでは具材をリニューアルした商品を発売するなどの販売活動を行いました。しかしながら、凍豆腐と同様に販売促進費の削減や猛暑もあり、売上高は20億円(前年同四半期比4.0%減)となりました。その他の食料品では医療用食材などが堅調に推移しており、売上高は7億9千9百万円(前年同四半期比7.7%増)と増加いたしました。

利益面では、売上原価上昇分の販売価格への転嫁は遅れており、販売数量も一時的に減少しているため、営業損失1億2千2百万円(前年同四半期は3千4百万円の損失)、経常損失1億6百万円(前年同四半期は5千5百万円の損失)、四半期純損失は1億1千5百万円(前年同四半期は9千8百万円の損失)となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度に比べ2億4千1百万円減少し、102億8千2百万円(前連結会計年度比2.3%減)となりました。総資産の減少の主な要因は、製造設備の維持更新などにより有形固定資産が1億8千3百万円増加したものの、現金及び預金が2億6千5百万円、受取手形及び売掛金が2億4千5百万円減少したことなどによるものです。

当第2四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度に比べ1億5千1百万円減少し、25億4千8百万円(前連結会計年度比5.6%減)となりました。負債の減少の主な要因は、支払手形及び買掛金の減少8千2百万円、未払金の減少1億3千7百万円があったことなどによるものです。

当第2四半期連結会計期間の純資産は前連結会計年度に比べ8千9百万円減少し、77億3千4百万円 (前連結会計年度比1.2%減)となりました。これは当第2四半期純損失1億1千5百万円の計上や剰余 金の配当4千5百万円を行ったことなどによるものです。

#### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の 増加は3千8百万円であります。

資金の増加の主な要因は、仕入債務の減少額9千3百万円、未払金の減少額1億7千万円があったほか、たな卸資産の増加額が5千1百万円あったものの、売上債権の減少額が2億5千万円あったことなどによるものです。

また、前第2四半期連結累計期間に比べ資金の流入額が7千3百万円増加しております。この主な要因は、売上債権の増減差額5千9百万円、仕入債務の増減差額4千2百万円、未払金の増減差額3千万円などの流入減少があったものの、棚卸資産の増減差額で2億1百万円流入増加となったことなどによるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、2億6千5百万円であります。

資金の減少の主な要因は、有形固定資産の取得による支出が2億2百万円、無形固定資産の取得による支出6千5百万円があったことなどによるものです。

また、前第2四半期連結累計期間に比べ資金の流出額が1億6千9百万円増加しております。この主な要因は、定期預金の払戻と預入の差額が1億円減少し、有形固定資産の取得による支出が3千6百万円増加したことなどによるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、4千2百万円であります。

資金の減少の主な要因は、配当金の支払による減少額4千5百万円があったことなどによるものです。

また、前第2四半期連結累計期間に比べ資金の流出額が3億2千万円減少しております。この主な要因は、長期借入金の返済による支出の減少で2億4千9百万円の流入となり、配当金の支払額の減少で4千5百万円の流入となったことなどによるものです。

以上により当第2四半期連結会計期間末における資金は前連結会計年度末に比べ2億6千5百万円減少し、9億5千2百万円となりました。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2千8百万円であります。

#### (6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

#### (7) 生産、受注及び販売の状況

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの生産、受注及び販売の状況に重要な変更はありません。

# 第3 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,400,000
計	28,400,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	
普通株式	9,382,943	9,382,943	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数は1,000株であります。
計	9,382,943	9,382,943		

## (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】 該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年 9 月30日		9,382,943		1,617,844		1,632,423

## (6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2 3 1	511	5.44
株式会社 八十二銀行	長野県長野市御所岡田178 8	452	4.82
旭松食品従業員持株会	大阪市淀川区田川 3 7 3	286	3.05
木 下 博 隆	東京都八王子市	279	2.97
赤羽源一郎	京都府京田辺市	275	2.93
株式会社 ヒメカン	兵庫県姫路市飯田長越492 1	274	2.92
藤徳物産株式会社	岡山県倉敷市西中新田525 6	274	2.92
佐々木 寛 雄	長野県飯田市	250	2.66
熊 谷 政 敏	長野県飯田市	226	2.41
株式会社 大乾	大阪市福島区野田 1 1 86	224	2.39
計		3,055	32.56

<sup>(</sup>注) 所有株式数は、千株未満は切り捨てて表示しております。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

			十成25年9月30日現在
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 224,000		権利内容に何ら限定のない当社にお ける標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,043,000	9,043	同上
単元未満株式	普通株式 115,943		
発行済株式総数	9,382,943		
総株主の議決権		9,043	

## 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 旭松食品株式会社	長野県飯田市駄科1008番地	224,000		224,000	2.39
計		224,000		224,000	2.39

<sup>(</sup>注) 当第2四半期会計期間末日現在の自己株式数は、224,069株であります。

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

該当事項はありません。

(3) 役職の異動

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

## 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

## 2.監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

# 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,372,459	2,107,404
受取手形及び売掛金	2,194,575	1,949,141
たな卸資産	<sup>1</sup> 1,124,276	<sup>1</sup> 1,186,128
繰延税金資産	2,019	2,553
その他	158,422	111,880
貸倒引当金	1,857	1,323
流動資産合計	5,849,896	5,355,784
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,583,073	5,637,491
減価償却累計額	4,219,824	4,271,451
建物及び構築物(純額)	1,363,249	1,366,040
機械装置及び運搬具	7,340,590	7,384,341
減価償却累計額	6,434,117	6,381,606
機械装置及び運搬具(純額)	906,472	1,002,735
土地	1,608,881	1,671,643
リース資産	70,520	66,698
減価償却累計額	52,576	42,745
リース資産(純額)	17,943	23,952
建設仮勘定	5,627	22,804
その他	440,746	441,945
減価償却累計額	368,823	371,317
その他(純額)	71,923	70,627
有形固定資産合計	3,974,098	4,157,803
無形固定資産	144,714	199,657
投資その他の資産		
投資有価証券	456,937	475,141
その他	97,921	93,745
投資その他の資産合計	554,859	568,886
固定資産合計	4,673,672	4,926,347
資産合計	10,523,569	10,282,132

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	961,818	879,116
短期借入金	33,601	36,648
リース債務	8,133	7,698
未払金	643,433	506,136
未払法人税等	18,349	13,231
賞与引当金	49,179	71,223
設備関係支払手形	19,784	119,542
その他	175,555	143,199
流動負債合計	1,909,855	1,776,796
固定負債		
長期借入金	6,122	10,305
リース債務	10,715	17,460
繰延税金負債	165,931	172,112
退職給付引当金	546,474	510,392
資産除去債務	46,658	46,849
その他	14,100	14,100
固定負債合計	790,001	771,218
負債合計	2,699,856	2,548,015
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617,844	1,617,844
資本剰余金	1,632,423	1,632,423
利益剰余金	4,522,377	4,360,835
自己株式	126,634	126,683
株主資本合計	7,646,010	7,484,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	136,606	148,652
為替換算調整勘定	8,230	60,847
その他の包括利益累計額合計	144,837	209,500
少数株主持分	32,864	40,197
純資産合計	7,823,712	7,734,117
負債純資産合計	10,523,569	10,282,132

(単位:千円)

# (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】 【四半期連結損益計算書】 【第2四半期連結累計期間】

		(羊位・113)
	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
	4,762,701	4,666,434
売上原価	3,608,186	3,651,085
売上総利益	1,154,514	1,015,348
販売費及び一般管理費	1 1,188,817	1 1,137,478
営業損失 ( )	34,302	122,129
営業外収益		
受取利息	1,813	1,127
受取配当金	3,692	4,438
受取賃貸料	1,058	-
受取保険金	437	-
受取技術料	1,071	-
補助金収入	-	4,473
維収入	5,376	7,016
営業外収益合計	13,449	17,055
営業外費用		
支払利息	2,205	479
賃貸収入原価	202	-
為替差損	637	481
休止固定資産維持費用	31,459	-
雑損失	148	905
営業外費用合計	34,654	1,866
経常損失( )	55,508	106,940
特別利益		
固定資産売却益	1,029	1,211
投資有価証券売却益		1,409
特別利益合計	1,029	2,621
特別損失		
固定資産除却損	6,857	3,974
減損損失	<sup>2</sup> 26,466	-
特別損失合計	33,323	3,974
税金等調整前四半期純損失( )	87,802	108,293
法人税、住民税及び事業税	8,455	6,637
法人税等調整額	946	671
法人税等合計	9,401	5,965
少数株主損益調整前四半期純損失( )	97,203	114,259
少数株主利益	908	1,486
四半期純損失 ( )	98,112	115,746

## 【四半期連結包括利益計算書】 【第2四半期連結累計期間】

		·
	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	97,203	114,259
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,549	12,045
為替換算調整勘定	5,606	58,463
その他の包括利益合計	15,942	70,509
四半期包括利益	113,146	43,750
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	114,615	51,083
少数株主に係る四半期包括利益	1,468	7,332

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	87,802	108,293
減価償却費	269,990	219,089
減損損失	26,466	-
貸倒引当金の増減額( は減少)	200	533
賞与引当金の増減額( は減少)	41,574	22,043
退職給付引当金の増減額( は減少)	33,982	36,081
受取利息及び受取配当金	5,506	5,566
支払利息	2,205	479
固定資産売却損益( は益)	1,029	1,211
固定資産除却損	6,857	3,974
投資有価証券売却損益( は益)	-	1,409
売上債権の増減額( は増加)	309,382	250,236
未払金の増減額(は減少)	140,478	170,718
たな卸資産の増減額(は増加)	252,428	51,276
仕入債務の増減額( は減少)	50,384	93,219
未払消費税等の増減額( は減少)	55,692	32,303
その他	32,112	10,473
小計	22,065	49,341
利息及び配当金の受取額	5,806	5,749
利息の支払額	2,222	522
法人税等の支払額	16,432	15,999
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,914	38,569
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,250,001	1,050,000
定期預金の払戻による収入	1,350,000	1,050,000
有形固定資産の取得による支出	166,551	202,994
有形固定資産の売却による収入	278	1,599
無形固定資産の取得による支出	30,216	65,165
投資有価証券の取得による支出	2,218	1,913
投資有価証券の売却による収入	-	3,484
貸付けによる支出	1,200	2,600
貸付金の回収による収入	2,947	1,792
その他	725	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	96,235	265,804

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額( は減少)	13,269	-
長期借入れによる収入	-	10,000
長期借入金の返済による支出	252,460	2,770
リース債務の返済による支出	6,560	4,862
自己株式の取得による支出	-	49
配当金の支払額	90,792	45,250
財務活動によるキャッシュ・フロー	363,083	42,932
現金及び現金同等物に係る換算差額	442	5,113
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	493,790	265,054
現金及び現金同等物の期首残高	1,097,616	1,217,432
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 603,825	<sup>1</sup> 952,377

#### 【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

#### 1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成25年 9 月30日)
商品及び製品	317,976千円	384,783千円
仕掛品	305,479千円	330,751千円
原材料及び貯蔵品	500,820千円	470,592千円

#### (四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
広告宣伝費	54,219千円	44,080千円
荷造運送費	400,267千円	388,418千円
従業員給料及び賞与	198,927千円	190,072千円
賞与引当金繰入額	-千円	14,017千円
退職給付費用	24,979千円	26,499千円
貸倒引当金繰入額	200千円	533千円

## 2 減損損失

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

当第2四半期連結累計期間において、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	場所
遊休資産	土地	茨城県

当社グループは、使用資産については管理会計上の区分に基づき、また、遊休資産等については個別物件単位でグルーピングを行っております。

減損損失を認識した上記資産は、遊休状態となったため、回収可能価額が帳簿価額を下回ったことから、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失(26,466千円)として計上しております。

なお、回収可能価額は、不動産鑑定士による不動産鑑定評価額によっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日) 該当事項はありません。 (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
現金及び預金	1,958,851千円	2,107,404千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	1,355,026	1,155,027
- 現金及び現金同等物	603,825	952,377

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1.配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	91,593	10.00	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月28日	利益剰余金

2.基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1.配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	45,795	5.00	平成25年 3 月31日	平成25年 6 月26日	利益剰余金

2.基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		20#	(+₩· III)
	食料品事業	計	その他	合計
売上高				
外部顧客への売上高	4,746,022	4,746,022	16,679	4,762,701
セグメント間の内部売上高 又は振替高	367	367		367
計	4,746,389	4,746,389	16,679	4,763,068
セグメント利益	592,309	592,309	12,850	605,160

- (注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、素材事業及び健康食品事業を含んでおります。
- 2.報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額 の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	592,309
「その他」の区分の利益	12,850
全社費用(注)	639,463
四半期連結損益計算書の営業損失( )	34,302

- (注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、遊休資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額 したことにより、26,466千円の減損損失を計上しております。 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		7.0/H	(+₩· III)
	食料品事業	計	その他合	合計
売上高				
外部顧客への売上高	4,648,870	4,648,870	17,563	4,666,434
セグメント間の内部売上高 又は振替高	246	246		246
計	4,649,116	4,649,116	17,563	4,666,680
セグメント利益	482,066	482,066	12,874	494,941

<sup>(</sup>注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、素材事業及び健康食品事業を含んでおります。

2.報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額 の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額
報告セグメント計	482,066
「その他」の区分の利益	12,874
全社費用(注)	617,071
四半期連結損益計算書の営業損失( )	122,129

- (注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報 該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
1 株当たり四半期純損失金額( )	10円71銭	12円64銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額( )(千円)	98,112	115,746
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額( )(千円)	98,112	115,746
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,159	9,158
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

<sup>(</sup>注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計 期間ともに1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

# 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成.25年11月8日

旭 松 食 品 株 式 会 社

取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 大 西 <u>公認会計士 大 西</u>

指定有限責任社員 <u>公認会計士 田 中 賢 治</u>印業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている旭松食品株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

弘

康

囙

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務 諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半 期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、旭松食品株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。 以 上

<sup>(</sup>注) 1.上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

<sup>2.</sup> 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。